向粟崎小学校評価報告書　（中間）　令和元年度　内灘町立向粟崎小学校

①よくあてはまる　②あてはまる
③あまりあてはまらない　④まったくあてはまらない

重点目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価	○成果　◆課題　・改善策
学力向上に向けた取組の充実	基礎学力の確実な定着を図る取組の充実〔学習規律〕	学年会などで「話す・聞く・書く」の指導の手立てについて共通理解・共通実践が十分でない	**学級の実態に合わせた学習規律の定着のための取を実施した〔努力指標〕** ※学級経営案の「学習規律」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 100 (100)	○教職員の自己評価だけでなく、相互授業参観等で互いに定着の度合いを検証していきたい。
			友達や先生の話を反応しながら最後までしっかりと聞いている〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 90 (91)	○聞く指導を段階を踏みながら毎月取組んだ結果だと思う。2学期も継続して、聞く力を養っていきたい。
	対話的な学びのある授業づくり〔授業力の向上〕	対話的学びが「意見の出し合い」で終わることがないよう、自己の変容に気づかせる授業づくりが求められる。	**対話的な学びにより、自己の考えを広げ深めるための工夫のある授業づくりを行った。〔努力指標〕** ※学級経営案の「授業力」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 94 (88)↑	○昨年度より6ポイント上昇した。研究授業等でより良い対話の在り方を学び、研鑽を深めていきたい。
			話し合いにより、多面的に考えたり、より深く考えたりすることが出来た。〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	B 86 (80)↑	◆昨年度より6ポイント上昇した。聞く力が高まってきた、変容に気づくまでには至らなかった面がある。 ・授業の終盤でふりかえりを行なうなど、変容したことに気づかせたい。
	学びのロードマップの活用〔学力向上〕	学年・学級間格差が生じないよう，組織的なPDCAサイクルを進めていく必要がある。	**学力向上ロードマップを元に、組織的に学力向上に取り組めた。〔成果指標〕** ※学級経営案の「学力向上」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 86 (93)↓	◆昨年度より7ポイント下がった。取組がやりっぱなしになり、PDCAサイクルのC（検証）の部分が難しい。 ・どの結果をどのように分析するかを吟味し、的確な検証から次の取組を考えていきたい。
	学校評議員による意見		・子どもたちの学習に対する姿勢が良くなっているのは、教職員の取組の成果。 ・学力調査の結果が良い。				
豊かな心の育成	児童が互いを認め合う温かい学級づくり〔学級づくり〕	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	**学年・学級で互いを認め合える具体的な取組をし、成長年表に残した。〔努力目標〕** ※学級経営案の「学級づくり」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 86 (93)↓	◆昨年度より7ポイント下がった。成長年表が形骸化してきた。児童の良さを認めるだけでなく、友達の良さを見つける児童のすばらしさにも着目し、成長年表を活用していきたい。 ・学校行事を中心に友達をよさをたくさん見つけられる児童の育成を図る。
			「きらきらアンケート」をもとに、子どもと自分や友だちのよさや頑張りについて話し合う時間をもった。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 77 (70)	◆昨年度より7ポイント下がった。少しずつ家庭への理解が図られている。児童の認め合いを児童相互や教師と児童だけでなく家庭へと周知する。 ・親子で互いの良さを見つけあう活動へと進展さ
			友だちのは、よいところや頑張りを認めてくれていますか？〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 79 (78)	◆児童相互に認めあう場が不足していた。 ・行事や様々な場面で♥カードのやり取りを行いながら掲示等で周知していきたい。
			あなたは、友だちから認めてもらっていますか？〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 79 (78)	◆同上
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施〔あいさつ〕	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはうまくできない子も多い。	**友達や先生、地域の方へ5mあいさつが定着するよう、工夫して指導した。〔努力指標〕** ※学級経営案の「あいさつ」の項目を４段階評価	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 89 (100)↓	◆一部の職員による取組となり、全体の職員の取組になっていない。 ・職員の意識改革と共通実践を図る。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 81 (82)	◆児童はできていると考えているが保護者との意識にずれ大きい。 ・保護者との差を埋めるため「あいさつの木」の取組を家庭、地域と広げていきたい。
			先生、友達、地域の方へ自分から進んで5mあいさつができる〔成果指標〕	児童アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 90 (81)↑	○昨年度より9ポイント上昇した。相手意識を持ったあいさつへとしていきたい。
	学校評議員による意見		・地域でのあいさつはよくできている。特に近所の子は「こんにちは」と言える。 ・遊びに来ている子供はあいさつしない。知らない人もあいさつできるようにしてほしい。 ・親が地域で知らない人にあいさつができていないのではないか。 ・何のためにあいさつするのかをしっかり考えさせることが大切。				
健康・安全に係る取組の充実〔体〕	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立〔早寝・早起き・朝ごはん〕	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きなどの基本的な生活習慣の定着により、朝ごはんをしっかり食べることが出来る児童を、より一層増やしていく必要がある。	**自分の健康に気をつけて生活するための指導ができた。（生活プランニング）〔努力指標〕**	教職員アンケート（学級経営案）	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 100 (87)↑	○昨年度13ポイント上昇した。「生活プランニング」の取組を年度当初から行った効果がある。年間を通して意識を継続したい。
			子どもは朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	保護者アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	A 97 (96)	○児童との差が気になるが、全般的に落ち着いた家庭環境があるためだと思われる。
			朝ごはんをしっかり食べて登校している。〔成果指標〕	児童生徒アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	B 94 (96)	◆家庭との連絡を密にとり、児童の家庭での状況把握に努めたい。
	学校評議員による意見		・毎朝食べる習慣ができている。				
信頼される学校づくり〔「家庭・地域」との「連携・協働」〕	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていく必要がある。	**地域人材を活用した授業を行った。〔成果指標〕** **①:3回以上　②:2回　③:1回　④:0回**	教職員アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	D 36 (7.7)	◆昨年度より大幅に上昇した。年間を通して、道徳や総合的な学習の時間で、地域の人から学ぶ機会を今後もさらに増やしていきたい。
	学校評議員による意見		・いろいろな職業を見ること、触れることが大切。				
教職員の業務適正化に向けた具体的な取組の充実〔働き方改革〕	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	月によっては超過勤務時間が80時間を越える職員もいる。	**ノー残業デー（水曜日）には、特別な場合を除き、6時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕** **①毎週　②月2回程度** **③月1回程度　④できなかった** ※勤務時間表	教職員アンケート	A:①+②が80%以上 B:①+②が65%以上 C:①+②が50%以上 D:①+②が50%未満	B 75 (57)	◆昨年度より18ポイント上昇した。時期や個による差があるが昨年度に比べ改善が見られた。 ・業務の内容や配分を常に改善しながら、すべての職員の超過勤務時間が月80時間を下回るように留意したい。
	学校評議員による意見		・毎週水曜日はノー残業デーの成果も出てきているのではないか。 ・先生方は効率よく頑張ってくれている。				